

# 地域に貢献

## ひとづくり ものづくり

NAYORO SANGYO HIGH SCHOOL

北海道名寄産業高等学校

地域と連携する産業教育を目指す名寄産業高等学校は、開校して2年目となります。

農業、工業、家庭科の大きく3つの学科からなる職業高校として、専門性を活かし地域に貢献するひとづくり・ものづくりに取り組む産業高校を紹介いたします。

同校は、開校と同時に北海道教育委員会から、「専門高校Power Upプロジェクト」事業「専門力UPプロジェクト推進事業・ものづくり・商品開発部門」の指定を受けました。

このプロジェクトは、将来の地域産業を担う実践的な能力の育成や、時代に対応できる専門的な教育、キャリア教育の充実を図ることを目的とするもので、ものづくり・商品開発部門においては、道内8校が研究指定されました。指定期間は平成21年度から3年間で、今年度は中間年度となります。

### これまでの取り組み

酪農科学科は、「みずならシヨップ」の運営、子どもたちの農業体験、市内施設の花壇整備、アスパラパウダーの研究開発やひまわり油の活用などを名寄産業高校から引き継いでいます。

電子機械科では小学生対象「親子ものづくり教室」や「ごみステーションの販売（学校祭限定）」を、建築システム科では、「公園ベンチデザインコンテスト（現在中止）」への参加や写真立てなどの木工品の販売（学校祭限定）を行ってきました。

そして生活文化科は、恵陵高校時代から伝統的に実施されていた「駅への座布団寄贈」や「3世代交流」「ゆかた着付け講習」などを継承してきました。

### 社会に貢献したい 気持ちに

同校は、各学科の教育に、市民との交流活動を積極的に取り入れ、名寄市（ふるさと）を客観的に考えてみる機会を与え、身をもって社会を感じることで、

生徒はどう変わってゆくのか。そして、生徒たちが、まわりの人々にお世話になっていていることに気づき、感謝する心を育み、人に役立つすばらしさを知ってもらうため、地域に貢献するプロジェクトを始動させました。

### 専門力UPプロジェクト

学校と地域が連携して、ものづくりを中心とした専門教育を行うことを目的に、平成22年2月23日に学校となるまちづくり観光協会、名寄青年会議所、名寄市、名寄市立大学などで構成（次回以降は、企業との連携を図る）するコーディネート委員会を開催。第1回目は各学科のこれまでの取り組み状況から、問題点を把握し、今後の展開を模索するといった内容で開催されました。この委員会での意見に、多くの市民にこれまでの成果を知ってもらうため、アンテナショップの出店などの勧めがあり、6月6日のアスパラまつり出店に向けての調整が始まりました。



第1回 コーディネート委員会のようす

### アスパラまつりに参加して

アスパラまつりには、関係者の協力のもと、希望のアンテナショップ「あすばランド」（酪農科学科「みずならショップ」と他の学科を含めたショップ）の開店に至りました。学校だけでは得られない「工夫して作ったものが喜ばれる。ならば、もっと良いものをつくり、もっと喜んでもらいたい。」このシンブルながら大切な思いを実感することができました。

### 酪農科学科

ハムや燻製、アイスクリームなどを販売しましたが、販売時間前にメイン会場で予告アナウンスが流れると、長蛇の列ができ、短時間で完売となりました。花の苗の販売やカブト虫の幼虫配布も好評でした。

### 電子機械科

ペーパークラフトは、メイン会場にて実施。ペーパークラフトの自動車作りには、多くの親子の参加がありました。また、学校祭限定で販売しているごみステーションと屋外型ベンチが展示されました。

### 建築システム科

日本建築学会北海道支部において金賞を受賞した卒業設計作品を展示し、設計者本人が説明を行いました。この作品は、名寄市の商店街空洞化現象に歯止めを掛け、活性化していくための提案であり、生徒のアイデアながら、名寄市の未来を真剣に考える意味で話題となりました。さらに、「なよろ」のネーム入りCD立てを無償配布しました。

### 生活文化科

名寄市と企業、市立大学、農業高校と連携するアスパラパウダーを活用した、新しいお菓子「もちもちパン」と「アスパララスナック」を研究試作しました。これらの試食アンケート調査を実施し、名寄のご当地新メニューなど、地場産品を活かした新しい食品を研究開発し、商品化に向け、調整をすすめています。



ひとづくり  
ものづくり

アスパラまつりに  
参加した生徒の感想

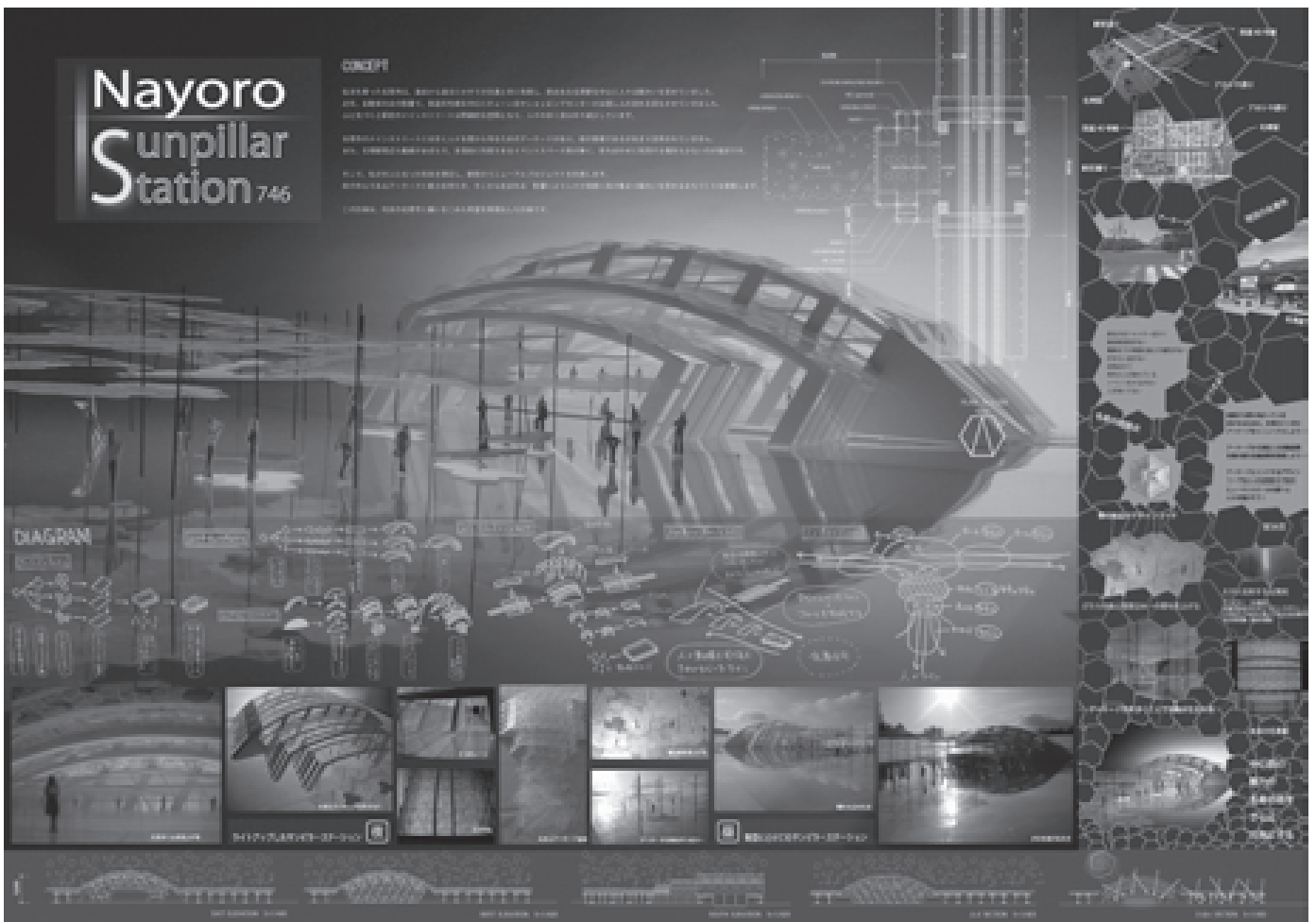
はじめは不安や戸惑もありましたが、良い経験になりました。多くのお客様に足を運んでいただき、嬉しく思いました。先生や商店街の人たちと一緒に自分も頑張ることができました。麦茶サービスや接客は、自分のためになりました。次回はさらに良いものを作り、飾り付けを充実させ多くのお客様に来ていただきたい。まつりに参加することで、産業高校をアピールすることができました。アスパラまつりのことを、自分たちが参加することで知ることができました。場所の提供や備品の準備に協力していただいた実行委員会に感謝します。



同校は「この4学科それぞれの特徴を活かし、さらに学科間連携を進め、地域に根ざした活動を展開していきたい。」と話しています。

昨年も開催した三学年が課題研究の授業の成果を発表する「課題研究合同発表会」は、学科間を超えた授業の在り方として、全道でも評価が高く今年も12月22日水に予定されています。発表会は校舎内で開催し、保護者、企業、そして地域の方にも広く公開するものです。

専門的な知識を活かし、地域社会と連携することで、高校生ならではの柔軟で奇抜な発想が地域ブランドの研究開発に貢献するとともに、育まれた人材が地域の産業振興の原動力となることが期待されます。



(社)日本建築学会北海道支部 卒業設計 - 工業高校の部で『金賞』を受賞した若林 賢君の作品